

# かばた

川俣地区住民協議会  
第17号  
平成26年3月発行



ありんこ劇団による  
「大谷嘉兵衛翁物語」  
松阪公演が3月5日  
(水)農業屋コミュニテ  
ィ文化センターであり  
ました。



公演が始まる頃には雨も上がり、会場は満席、多くの皆さんに、郷土の偉人、大谷嘉兵衛を知っていただくことができました。

ありんこ劇団の皆さんは、猛練習の成果を2月16日の「ふるさと祭り」で先ず地元の皆さんにお披露目、そして大きな舞台での公演でした。どちらも皆さんの喝采を博しました。

涙あり、コミカルな場面あり、あっという間の1時間45分でした。

晩年の大谷嘉兵衛が昔のことを回想するという形で劇は進みました。

大谷嘉兵衛と妻 ゑい子。5歳の嘉兵衛は木場陽紀くん、堂々たる演技でした。

嘉兵衛の両親と奉公先の小倉藤兵衛夫妻。ご夫婦役、息もピッタリでした。

子供たちも頑張りました。

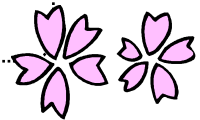




住民協議会会長は村長役で出演。貫禄がありました。  
 山中松阪市長も茶を買いにくる伊勢からの客役で特別参加。  
 なかなかの演技でしたよ。  
 脚本・演出は小林典子さんです。役者さん、裏方で支えてくれた皆さんお疲れさまでした。



～ありんこぼれ話～  
 白玉家は、嘉兵衛役に幸一さん、大谷家の主治医役に父 達男さん、村の子供役で子の涼華さん、裏方には母 雪さん、三世代家族が大活躍でした。



川俣村谷野へ帰省の時の様子  
 大谷嘉兵衛がふるさと谷野へ帰省する時は、川俣第一小学校の全児童、生徒は大谷橋の両側に整列し、各自手旗を持って歓迎したという。もちろん、土地の有力者も一戸に一人は必ずその歓迎に加わった。橋のたもとには、杉の葉を集めてアーチを作ったという。檀那寺「長楽寺」に墓参をすませたあと、谷野の自宅の大広間に、里人を集めて馳走を出し、また手土産として、一戸に金五円、江戸絵一枚ずつを配ったという。

「飯高町郷土史から抜粋」

～出演者からひとこと～  
 演劇の練習の合間や昼食に、カレー、おにぎり、味噌はん等を、世話人の人が用意してくれた。大勢で囲んで食べるのは格別のおいしさがあった。家族のようにひとつにまとまり、本当に楽しかった。  
 舞台度胸をつけるには練習しかない、それを実行するように皆本当に練習に練習を重ねた。本番で精一杯表現し、観客の「よかった」との評判をきいた時には、練習した甲斐があったという達成感があった。  
 その人の特長を生かした役柄の演出に感動した。



県道蓮峡線道路改良工事が一部完了し、3月18日(火)正午から供用を開始しました。  
 富永地内の現道から森地内の国道166号までの4.2Kmの事業区間のうち、今回1.4Kmの利用が可能となり、これまでの分をあわせると1.9Kmが利用可能となりました。  
 りっぱな橋も架かりました。

森～宮本 間  
**中瀬橋** L=88m



宮本～七日市 間  
**平瀬大橋** L=121.5m

